

日本学術振興会日中韓フォーサイト事業  
中間評価（平成30年度採択課題）結果

日本側拠点機関名 東京工業大学（理学院・准教授・西野 智昭）  
研究交流課題名 原子スケール有機・無機ハイブリッド機能化とフレキシブル展開

評価結果（総合的評価）	
<input type="radio"/>	A 想定以上の成果をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる。
<input checked="" type="radio"/>	B 想定どおりの成果をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる。
<input type="radio"/>	C ある程度の成果をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である。
<input type="radio"/>	D 成果が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額または中止が適当であると判断される。
所見	
<p>日本が得意とする低次元物質に関する基礎研究を、中国・韓国が多くのノウハウを有するデバイス応用へと共同研究によって相補的に展開することによって、国際的水準の研究交流拠点となり得る学術的成果が上げられている。共同研究の成果が著名な雑誌上で発表された点、また当初の3つの研究テーマに加え、事業開始後に新たに2つの共同研究を開始しており、研究交流を活発化させている点は評価できる。本事業により、日韓や日中の2国間連携にはない付加的効果が現れ、研究が高度化されることを期待したい。</p> <p>また、研究交流・若手研究者の育成の観点からは、毎年三カ国間で順番に開催されるセミナーや若手研究者を派遣しての共同研究の実施により、情報交換や研究ネットワーク構築がなされているほか、視野を広げるための機会として中韓のトップの研究者と交流する場を設ける、セミナーでの若手の英語発表の機会を増やすなど、若手育成に配慮した拠点の運営がなされている。</p> <p>本事業による日中韓の研究交流で、有機・無機ハイブリッド材料の基礎研究からデバイス応用までを行うことができる研究ネットワークを構築し、今後もさらに発展させることで、世界的にも波及効果の高い優れた研究成果が期待される。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止となった対面でのセミナーの代わりに、オンラインでのセミナーも計画されており、共同研究や研究者間の交流を今後も維持・活発化させることが望まれる。</p>	